

## 「水面を歩く貝 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

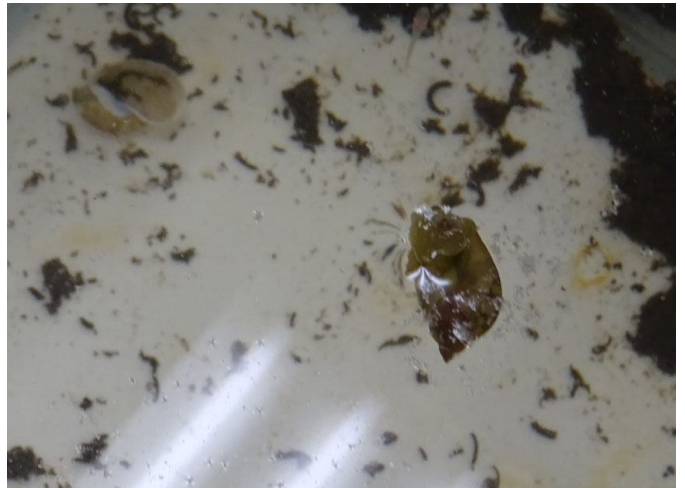
実験観察室(理科室)の一角に置いてある小さな水槽。少し前までは、メダカの稚魚がたくさんいたが、夏休みを前にして、全部5年生の子どもたちに配ってしまった。今はプランクトンと小さな貝しかない。



水槽にいる貝は**モノアラガイ *Radix auricularia japonica***という種類だ。学校の壁泉(動植物がいる小さな池)で、子どもたちが採ってきたものだ。似た貝に「サカマキガイ」というのがあるが、これは殻のまき方が逆(左巻き)で、触角が細いことで同定できる。繁殖力旺盛で、水槽内側ガラスの汚れをとってくれるので重宝するが、放っておくと際限なく増える。



その水槽を、子どもたちが取り囲んでガヤガヤしている。「スゴイよこのタニシ、水面を歩いてるよ!」タニシではなく、モノアラガイである。それに水面を歩く貝なんて聞いたことがない。



私は水面の上を、アメンボのように歩いているのだと思った。しかし観察すると、「水面の下」を這うように歩いている。



こんな器用な歩き方をする貝は見たことがない。子どもたちは「どうして水面を歩いているんだろう?」と不思議そうにいつまでも眺めている。



子どもの「どうして」には「仕組みを問う」場合と「理由を問う」場合がある。私は仕組み(水面を歩けるメカニズム)よりも、理由のほうに興味を持った。